

1 今年度の取組目標と方策について

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

- ① 教科会等を充実させ、授業改善を図り、組織的で計画的な学習指導体制を構築する。
- ② 「都立高校学力スタンダード」事業を通して、主体的学習へ向けた指導を充実させ、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図り、評価の工夫を行う。
- ③ 読書活動を充実し、生徒の言語能力の向上を図る。

成果：①教科会を定期的に実施し、生徒の主体的学習に向けた指導方法の研究等を行うことができた。②大江戸高校学力スタンダードに基づき、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図った。アクティブラーニング授業について、各教科での取り組みを推進した。

課題：読書活動推進及び評価の工夫と生徒の学習習慣の確立を推進し、学習意欲促進につなげること。

イ 生活指導

- ① 安心・安全で落ち着いた学校生活を推進し、生徒一人一人の社会的・職業的自立につながる、地域からも信頼される身だしなみ等の基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成を行う。
- ② 生徒の個別状況を早期に把握し、きめ細かく組織的な指導を行なう。
- ③ 校内美化、省エネ、節電について考え、実践する力を培う。

成果：①基本的な生活習慣の確立を促す指導として、年5回の遅刻・欠席指導を行った。遅刻・欠席が3分の1を超える生徒が、平成27年度33%に対し、12%に減少した。身だしなみ指導は、化粧指導やスカート丈改善指導を日常的に行い、行事等の際に一斉指導を実施した。②各年次と連携し、生徒の個別状況を把握し生活指導を行った。特別指導件数は、26年度14件、27年度13件、28年度8件と連続して減少した。③生活指導部と保健部が協力し美化に努めた。文化祭では「美化賞」を設け、全校で協力できた。

課題：単位制、三部制のため、生徒把握と個別指導に乗らない生徒に対する指導の工夫。

ウ 進路指導

- ① キャリア教育全体計画を組織的に実行し、1年次から計画的・段階的に、コミュニケーション能力、社会性の育成を含めたキャリア教育を充実させる。
- ② 三修制、四修制に配慮した進路指導体制を確立し、ガイダンス機能を充実させ、希望進路を実現する指導を行なう。
- ③ 特別な支援を必要とする生徒に対しては、組織的な就労支援体制等を構築し、卒業後の移行支援を見据えて指導する。
- ④ 卒業生に対して、定着指導・支援を行う。

成果：①体験学習を1年次から3年次まで全員に課し8割以上参加した。参加率：ボランティア体験（1年次）1日目93.1% 2日目89.7%、インターンシップ（2年次）1日目87.0% 2日目80.1%、福祉施設（3年次）83.6%、②「進路の手引き」を改訂し、在校生全員に配布した。全員に配布することでより計画的な指導に繋げる準備ができた。さらに、「進学に関わる推薦規定」を改訂し平成29年度入学生から適用し、計画的段階的な指導を行う。3、4年次の合同の進路説明会や保護者会、奨学金説明会を実施し情報提供した。ガイダンスルームの書籍（とくに一般受験対象の「赤本」や問題集など）を充実させた。模擬テストの結果返却や事後指導を、年間を通して進路指導部が行った。生徒の精神面に配慮し、きめ細かく丁寧な指導を心掛けた。③次年度は車椅子の生徒2名が卒業を予定している。教育支援委員会と連携した個別指導を実施した。④28年3月に卒業した生徒全員の進路先での定着状況を、11月上旬（文化祭の時期）に調査した。卒業後進路先が未決定の生徒に対し、自立支援チームが、面談などの支援を実施した。

課題：「進路の手引き」のさらなる活用、生徒と教員への進路情報の提供、早期の進路意識の醸成。

エ 特別活動・部活動

- ① 学校行事については内容の精選と充実を図り、生徒会や部活動において生徒がより一層主体的に関われるように活性化させ、生徒の学校への帰属意識や社会性を高める。
- ② 地域と連携した避難訓練等の実施により、社会連帯の精神と責任を重んずる態度を育成する。
- ③ 体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動、教育活動を展開する。

成果：①体育祭では学年を超えた応援団をつくり実施した。②地域消防団、消防署、警察署と連携し、総合防災訓練及び校外への避難訓練を実施して、防災教育を推進した。

課題：学校行事の意義を理解させ参加をさらに促す取組が必要。

オ 健康づくり

- ① 「アクティブプラン to 2020 総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）」に基づき、体力向上を目指す。
- ② 多様な生徒に対応した教育相談体制の確立を図り、心と体の健康づくりへの組織的な取組を行なう。
- ③ 学校保健計画に基づき、生徒・保護者が主体的に健康に関する意識を高めるよう、組織的指導の充実を図る。
- ④ 学校給食を活用した食育を一層推進する。

成果：①体育祭の会場変更により、これまでより広い中学校庭を活用した。②教育支援委員会において、生徒情報を共有し支援チームとともに支援方法を検討し早期対応を行った。③定期健康診断及び個別相談を実施するとともに、健康課題のある生徒へ指導助言を行い、全校生徒へも保健指導を実施した。④給食摂取率向上とともにⅢ部以外の生徒には、トライアル給食を実施した。

課題：食生活の改善や運動習慣定着をさらに進めるとともに、教育相談体制との連携の深化。

カ 募集・広報活動（地域交流等）

- ① 総務部が中心となり、学校情報を更に積極的に発信し、募集・広報活動の活性化を図る。
- ② 地域の関連諸機関との連携を強化し、地域の教育力の活用の促進を図る。

成果：①学校見学会や学校説明会について、近隣各区立中学校及び教育相談室・適応指導教室に「学校案内」や「大江戸高校ニュース」等を配布し、近隣各区の中学校及び教育相談室・適応指導教室の高校説明会等に、教員を派遣し説明を行った。また、HPを充実させた。

特色のある高校4校と合同で、中学校教員対象の合同説明会を本校で開催した。

②各区立の教育相談室・適応指導教室・若者サポートステーションと連携して、本校生徒の自立に向けた地域の教育力の活用の促進を図った。

課題：30年度増学級に向けた広報体制の強化。

キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とし、主幹や分掌主任、経営企画室が一体となった学校運営体制を構築する。
- ② 校内研修の充実、目指す学校像の共通理解を図り、一貫した協働的指導体制を確立する。
- ③ 学校経営計画の実現を目指す経営参画型経営企画室としての機能強化を図る。
- ④ 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。

成果：①主幹会議と企画調整会議を連動させ、様々な学校課題の対応及び解決を早めることができた。②研修委員会として、年3回の授業公開にあわせて教員相互の授業参観を奨励し、1年次2名・2年次1名・3年次1名の研究授業を年3回実施し若手教員の育成に努めた。また、京都府3校・神奈川県1校の視察を行い、アクティブラーニング等の研究報告会を実施した。③食育、校内美化、予算執行など経営企画室からデータや提案を得て学校運営を活性化した。学校徴収金未納者0を達成した。

課題：30年度増学級に向けた校内組織体制を再強化すること。

2 重点目標と方策

ア 学習指導

- ① 学習支援のために、土曜講習（かもめ塾）や平日補講など組織的・計画的に実施し、基礎基本の定着や応用力の育成など生徒のニーズに応じる体制をつくる。
- ② 各教科の生徒活動を引き出す授業や教材の工夫を行い、「アクティブラーニング」やICTを活用した学習指導等を実施するとともに、授業力向上のための校内研修の実施や校外研修への参加を行う。
- ③ 評価法の改善をし、学習到達度や学習経過を適切に評価し、生徒の学習意欲を高めるようにする。
- ④ 授業等で図書館利用を充実させ、読書月間・週間の設定を通して、読書活動を推進し、校内で「高校生書評合戦」を開催する。
- ⑤ JETプログラムやALTを積極的に活用し、語学力向上だけでなく、広く異文化理解に繋げる。

成果：①大学進学希望者（一般受験）を対象に、かもめ塾で年間56時間（土曜日23回）の講習を実施したが、継続参加者が4,5名だった。年度後半には大学生を活用した学習支援体制を整え、定期考査に向けた自主的な学習をサポートしたが、利用者は少数だった。②既述③生徒の学習到達度をより細かく評価するため、評価法を5段階から10段階に変更を決定。⑤JETが英語科教員と連携し、大学進学希望者の面接練習・英作文添削を担当した。とくに外国語学部を希望する生徒の面接練習は学習効果があった。
課題：かもめ塾は、対象を広げ参加者増加させ、外部連携に関わる学習支援は実態に合わせた取組の工夫を行う。教科ごと10段階に合わせた評価規準の策定と生徒への周知。図書館利用の活性化。

イ 生活指導

- ① 「授業を大切に」週間を設定し、常に全教員が授業規律の確保・維持に努め、授業開始時刻と同時に授業を始め、生徒に「時間を守る」意識を育成する。更に授業の開始時・終了時の挨拶を敢行させる。
- ② 全教職員が本校の指導基準を共通理解し、遅刻防止・頭髪・服装等の生活指導を行う。公共の場や交通機関、学校生活を送る上でのルールやマナーを厳守させ、規範意識を高める。特に、情報機器の適切な利用（SNSルール）を徹底する。
- ③ 特別な支援が必要な生徒への生活指導について、都教委の自立支援チームや校内の教育支援委員会と連携して実施し、中退や不登校防止に繋げる。
- ④ 清掃指導の充実を図り、校内の清潔感を保つ。

成果：①「授業を大切に」週間を実施して、全教員の授業開始時刻と同時に授業を行い、生徒に「時間を守る」意識を育成した。②SNSに関する研修実施や生徒指導ルールの一部改訂について全体で検討した。③特別支援が必要な生徒への生活指導について、生活指導部と都教委自立支援チームや教育支援委員会が連携して実施した。④・体育祭や文化祭の清掃活動の様子から、生徒の環境美化への取り組みが年々高まってきている状況が確認できた。
課題：単位制、三部制による生徒への意識付けと生活指導体制のさらなる強化。

ウ 進路指導

- ① キャリア教育推進委員会の活性化を図り、「チャレンジ指定科目」の指導内容・指導方法を検討・改善し、自己理解と将来設計の活動を重視し、計画的・系統的なキャリア教育を実施するとともに、保護者等への情報提供も適切に行い理解、協力を求める。
- ② ハローワーク、サポートステーション等の地域機関と連携を深め、進路指導を充実させる。進学者については学力の推移、就職者については資格取得の状況を分析し、組織的に進路指導を行う。その上で1・2・3年次全員に統一した学力テストを実施するとともに、資格取得を奨励する。
- ③ 特別支援教育コーディネーターが中心となり、特別支援学校と連携した進路指導の充実を図り、特別な支援を必要とする生徒に対しても「進路指導カード」を活用し、進路実現を図る。
- ④ 卒業生全員への「卒業生進路アンケート」や就職先、進学先訪問など卒業生への支援を行う。

成果：①既述②ハローワークのジョブサポーターが年間3回来校し、生徒とも面談を行った。生徒の希望や特性に応じた企業情報を収集することができた。学校斡旋による就職内定者は11名、決定率は100%。卒業後もハローワークと連携できる体制を整えた。世田谷サポートステーションと連携し3月中旬に就職内定者指導を実施した。就職後の相談先として、サポートステーションの利用の仕方を伝えた。ベネッセの学力テストを年に2回（4月と9月）1・2・3年次全員を対象に実施した。来年度は、テスト結果の分析と指導への活用方法について、改善を図る。③「人間と社会」のグループワーク等を通して、人間関係の形成や学ぶこと、働くことの意義を考えさせ、進路意識の高揚に努めた。車いす・アイマスク・ボランティア・地域清掃を実施し、体験的な活動を通してコミュニケーション能力の育成を図った。社会貢献や年3回のグループエンカウンターを実施し、自己理解と他者評価を図った。④既述
課題：30年度の増学級に向け、体験学習の受け入れ先を確保と実施時期。学力テスト結果の活用の工夫。特別な支援が必要な生徒の検査等の活用。

エ 特別活動・部活動

- ① I部、II部、III部の生徒が一堂に会する学校行事、生徒会活動をより充実させ、学校行事への参加率を向上させる。
- ② 全校集会や部集会を活用し、校歌指導や講話等の指導を充実させ、大江戸高校生としての自覚と連帯意識を育成する。
- ③ 教員を対象に体罰防止、いじめ防止の校内研修を行う。また、部活動の顧問教諭は、部活動の「指導方針等」を作成し、生徒・保護者に対して説明を行い、さらに保護者に対して指導状況の参観の機会を設ける等体罰防止に向けた取組を行う。外部指導員については、経営企画室を含めて委嘱・承諾を適切に行う。

成果：①体育祭・文化祭とも学校全体で取組み、4年次はクラスやI部、II部、III部を超えた活動を展開し、さらに、他年次はクラス参加で責任感や連帯感、学校への帰属意識を高めることができた。②行事を通じた校歌指導により大江戸高校生としての自覚と連帯意識を高めることができ、入学式・卒業式において、列席者を感動させ称賛をうける生徒合唱を示すことができた。③全教員を対象に体罰防止、いじめ防止の校内研修を行い、年間を通して体罰の発生は皆無であった。経営企画室と協力し、外部委嘱については、適切な手続きを行った。
課題：生徒の部活動加入率の向上。

オ 健康づくり

- ① 「精神科医の校医事業」、「都立高等学校等への特別支援教育心理士巡回相談事業」及び「高等学校における発達障害教育支援員等活用の研究事業」の実施校として、専門家のコンサルテーションを生かすとともに関係機関との連携を図る。
- ② 新たな感染症、心の健康づくり、食物アレルギー等の健康課題を理解するための校内研修を開催し、組織的で具体的な取組への実践力を高める。生徒対象には、薬物乱用防止教室、情報モラル・リテラシーに関する教室、交通安全教室、喫煙防止教室等を開催する。保護者にも保健便り、カウンセラーだより、講習会参加など子ども理解のための支援を行う。
- ③ 栄養職員、学級担任等が中心となり、学校給食を活用した食育の一層の推進やテーブルマナー講習会の実施を通して、正しい食生活、食に関する知識・理解を深めさせる。

成果：①各事業においては、対象生徒についてよりよい支援の方向性を決め適切な支援を行った。②心の健康づくりや食物アレルギーなどの健康課題について校内研修を開催した。③ほけんだよりを年7回発行し、感染症の予防や各相談事業の周知を図った。
課題：専門家と連携を深め多くの教員が関わることによる事業の活性化。

カ 募集・広報活動（地域交流等）

- ① 校内において学校説明会や適応指導教室、教育相談室及び1年次生出身中学校等を訪問し、学校情報を提供する。また、退職教職員等ボランティアも活用し、個別学校見学への対応を行う。
- ② ホームページの充実を図り、適宜内容を更新する。

成果：①学校説明会や適応指導教室、教育相談室及び1年次生出身中学校等を訪問し、学校情報を提供する。また、退職教職員等ボランティアも活用し、個別学校見学への対応を行った。②学校情報をより早く発信するため、ホームページを随時更新し有効に活用することができた。
課題：30年度増学級に向けた広報・募集対策の工夫。

キ 学校経営・組織体制

- ① 「OJT診断基準」、「執務ガイドライン」を活用し、教員が一体となって学校運営に当たっていく体制を構築する。
- ② 「経営参画ガイド」や事例集を活用し、経営企画室の経営参画を推進し、教育職員と行政職員が密接な連携の下、学校運営を進める。
- ③ 施設・設備の安全確認・効率的利用の視点から校内外を巡視し、より安全・安心な学校環境を整備し、不備による事故をゼロとする。町内会の一員として、地域ぐるみで地域を含めた防災教育の推進を図る。

成果：①②教員と経営企画室との連携を推進して、学校行事の効率化や予算の有効活用などを図った、③管理職、経営企画室職員及び教職員による校内巡回を毎日実施して、施設・設備の安全管理の徹底を図った。また、地域の防災会議や合同防災訓練に参加して、地域を含めた防災教育の推進を行った。
課題：30年度増級に向けた環境整備の推進。

ク 数値目標の結果（ ）内が数値結果

- ① 生徒による授業評価において、満足度、理解度を85%以上（授業評価より85.9%）
- ② 教員によるお互いの授業参観を学期1回以上、授業に関する校内研修を年間1回以上。
（先進校視察報告研修会 12月、研究授業週間 学期ごと3回）
- ③ 1・2・3年次全員に統一した学力テストを実施する。資格取得を奨励し、資格取得者140名。（118名）
- ④ 生徒の進路決定率80%以上（3年次 決定率83.1% 4年次 決定率69.0% 全体 決定率80.2%）
- ⑤ 生徒の学習支援、土曜講習25回以上、夏期講習25講座800人以上参加、平日講習（外部支援含む）50回以上
（土曜講習23回・56時間（かもめ塾）、夏期講習26講座568人、大学生を活用した学習支援25回）
- ⑥ 文化祭、体育祭への生徒参加率85%以上（体育祭80.5% 文化祭80.8%）
- ⑦ 部活動加入率70%以上、全国大会出場4部以上（66%、全国大会：女卓球、男バス、柔道、剣道）
- ⑧ 学校説明会9回、参加者2000人以上、退職ボランティアを活用した個別訪問対応600人以上
（学校見学会1回 学校説明会2回 募集要項説明会2回 合同説明会4回 実施、参加計1230名、退職ボランティアによる説明419名）
- ⑨ 入選倍率2倍以上（2.02倍）
- ⑩ HPの更新を月4回以上、アクセス数を月6000回以上（更新85回）
- ⑪ 自律経営推進予算のセンター執行割合60%（執行率63.8%）